

大豆特報

黒 部 市
黒 部 市 農 業 技 術 会 議

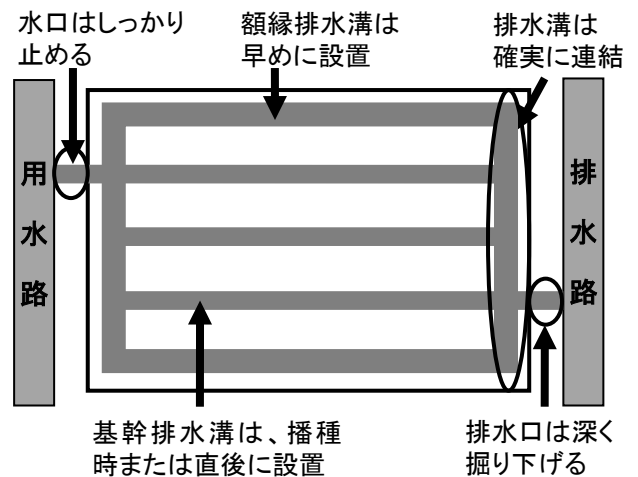
大豆栽培は、排水対策と土づくりが大変重要です。播種前のほ場準備をしっかりと行いましょう。

また、耕起、播種などの一連の作業は土壌がよく乾いた状態で行い、出芽・苗立ちを促すとともに、苗立ち本数の確保を図りましょう。

麦跡大豆は大麦収穫後、直ちに播種できるように計画的に作業を進めましょう。

1 排水対策

- (1) 水口はしっかりと止め、水が入らないようにする。
- (2) 耕起前に、深さ 20cm 以上の額縁排水溝を必ず設置し、深く掘り下げた排水口と連結する。
- (3) 播種後も排水溝の点検・手直しを行い、排水を徹底する。



2 土づくり

(1) 土壌改良剤

pH6.0~6.5 を目標に、石灰質資材を耕起前に施用しましょう。

資材名	10a 当たり施用量
粒状貝化石	150~200kg
チャンピオン	60kg

(2) 有機物

地力の低下を防ぎ、収量・品質の向上を図るため、特に大豆の作付回数が多いほ場は発酵鶏ふんやたい肥を積極的に施用しましょう。

資材名	10a 当たり散布量
発酵けいふん	150kg
牛ふんたい肥	2t

3 種子消毒

種子は毎年更新するとともに、必ず種子消毒しましょう。

薬剤名	使用法	使用量	対象害虫	備考
クルーザーMAXX	塗沫	80ml/ 種子 10kg	アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ、フタスジヒメハムシ、茎疫病、紫斑病等	薬剤は青色処理後は風乾

4 基 肥

土壌条件や前作に応じて適正な量を施用しましょう。
 莢先熟を防止するため、**基肥の過剰施用は避けましょう。**

麦跡の基肥量は、
10～15 kg/10a
 増やす。

肥料名	土質	狭畦	畝立
BB特15号	砂壤土	25～30kg/10a	20～26kg/10a

5 播 種

(1) 播種様式や播種時期並びに品種や粒径に応じた播種量を確認して、
 適正な栽植本数を確保しましょう。

栽培法	品種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量(kg/10a) ^{注1,2)}
狭	えんれいのそら	5月下旬～6月上旬	20,000	7.9 kg
		6月中旬	21,000	8.3 kg
畦	シュウレイ	5月下旬～6月上旬	20,000	8.4 kg
		6月中旬	21,000	8.8 kg
	オオツル	6月上旬～中旬	19,000	8.1 kg

栽培法	品種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量(kg/10a) ^{注1,2)}
畦	えんれいのそら	5月下旬～6月上旬	14,000～16,000	5.5～6.3 kg
		6月中旬	16,000～18,000	6.3～7.1 kg
立	シュウレイ	5月下旬～6月上旬	12,000～15,000	5.0～6.3 kg
		6月中旬	15,000～18,000	6.3～7.6 kg
	オオツル	6月上旬	10,000～12,000	4.3～5.1 kg
		6月中旬	12,000～14,000	5.1～6.0 kg

注1) 苗立率85%として計算

注2) 大粒の百粒重：えんれいのそら 33.4g、シュウレイ 35.7g、オオツル 36.3g

- (2) 耕起作業は、作土深20cmを目標に行う。碎土率60%程度を確保するため、トラクタの作業速度、ロータリ回転数を調節する。摩耗した耕うん爪は交換する。
- (3) 播種深度は3cmを目安とする。浅いと水分不足に、深いと茎疫病により出芽苗立ちが悪くなる。
- (4) 播種は0.5m/秒程度の速度(3連の播種機で30aのほ場を70分程度)で、急がず、確実に種子を播き、欠株を防ぐ。
- (5) 播種時にできた溝は、排水溝に確実につなぎ、排水を促進する。

6 雑草防除

除草剤は、播種後の雑草発生前に均一に表面散布しましょう。

除草剤名	使用時期	10a当たり散布量
ラクサー乳剤	は種後出芽前 (雑草発生前)	500ml (希釈水量:100ℓ)

注1) 散布直後に多量の降雨が予想される場合は、降雨後に散布しましょう。

注2) 隣接ほ場や作物に飛散すると薬害が生じるので、注意して散布しましょう。